

平成 27 年度決算審査意見書（概要版）

1 決算審査意見書

決算審査意見書は、市長の依頼に基づいて、監査委員が各会計の決算等について審査を行い、その結果に意見を付けてまとめたものであり、平成 28 年 8 月 24 日付けで市長に提出しています。各会計の決算等に関し、歳入歳出の状況や各種の財政指標などを御覧いただくことができます。

2 決算審査の結果

(1) 一般会計・特別会計歳入歳出決算

決算書などの関係書類が関係法令に従って作成され、表示された計数が正確であるか等について検証を行いました。その結果、関係書類は関係法令に従って作成され、これらに表示された計数は正確であり、また、各会計の予算執行や事務処理はおおむね適正かつ効率的であると認めています。

(2) 公営企業会計決算

決算書などの関係書類が関係法令に従って作成され、事業の経営成績や財政状態を適正に表示しているか等について検証を行いました。その結果、関係書類は関係法令に従って作成され、事業の経営状態や財政状況を適正に表示し、表示された計数も正確であると認めています。また、各事業会計の予算執行や事務処理についても、おおむね適正かつ効率的であると認めています。

(決算の状況)

(単位:千円)

区 分		歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越財源 ※1	実質収支 ※2	単年度収支 ※3
一般会計		81,060,988	79,607,048	1,453,940	143,009	1,310,931	△410,247
特 別 会 計	国民健康保険事業会計	20,412,346	20,262,462	149,884	0	149,884	141
	霊園事業会計	93,189	93,189	0	0	0	0
	介護保険事業会計	12,118,789	11,962,455	156,334	0	156,334	△4,373
	後期高齢者医療会計	1,872,443	1,813,024	59,419	0	59,419	△2,290

※1「翌年度繰越財源」とは、年度中に生じた事由により翌年度に繰り越すことになった事業費に充てるための財源をいいます。

※2「実質収支」とは、歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

※3「単年度収支」とは、当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額をいいます。

(単位:千円)

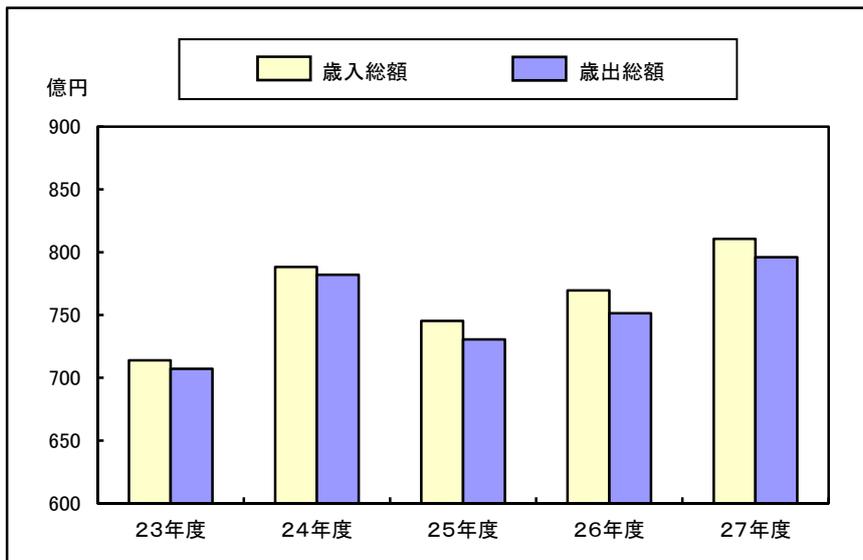
区 分	収益的収支			利益剰余金又は累積欠損金	累積資金収支 ※4
	収入	支出	差引		
水道事業会計	3,339,351	2,651,519	687,832	608,144	1,711,639
下水道事業会計	5,331,422	4,716,746	614,676	632,408	820,435
市立病院事業会計	10,247,835	10,387,176	△139,341	△7,699,084	△354,428
公設地方卸売市場事業会計	159,569	130,593	28,976	32,734	486,065

※4「累積資金収支」とは、流動負債から算入除外額を減じ、それを流動資産から差し引いた額をいいます。

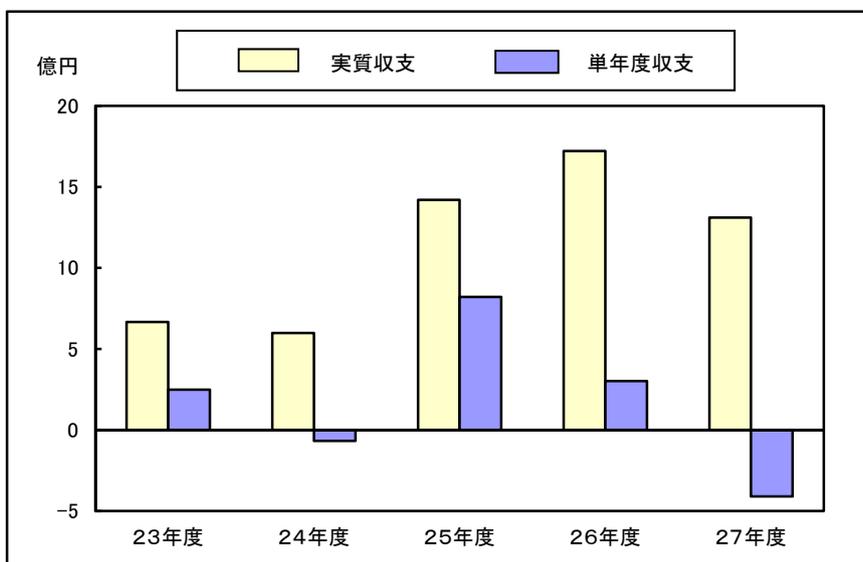
3 苦小牧市の財政状況

(1) 一般会計の収支状況

一般会計の収支状況は、次のとおりです。



27年度の一般会計歳入総額は810億6,069万円で、前年度と比較すると41億213万円(5.3%)増加しています。これは地方消費税交付金や市債の増加などによるものです。歳出総額は796億704万円で、前年度と比較すると44億6,402万円(5.9%)増加しています。これは、自立支援給付などの扶助費、旧道立病院改修等や消防庁舎整備などの事業費、基金への積立金の増などによるものです。



27年度の一般会計実質収支は13億1,093万円の黒字となっていますが、単年度収支では4億1,024万円の赤字となっています。

(2) 財政状況

ア 財政力指数

財政力指数は、地方公共団体の財政の強弱を示す指標で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値のことをいい、その数値が高いほど普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえます。

27年度の財政力指数は0.76となっています。

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
苫小牧市	0.75	0.74	0.74	0.75	0.76
札幌市	0.69	0.69	0.69	0.70	
函館市	0.45	0.44	0.45	0.45	
小樽市	0.44	0.43	0.42	0.42	
旭川市	0.49	0.48	0.48	0.48	
釧路市	0.45	0.44	0.43	0.43	
帯広市	0.54	0.54	0.54	0.55	
北見市	0.45	0.44	0.45	0.45	
江別市	0.51	0.50	0.50	0.50	
9市平均	0.53	0.52	0.52	0.53	

出 典

総務省ホームページ「地方公共団体の
主要財政指標一覧」より

イ 経常収支比率

経常収支比率は、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、経常経費に充当された一般財源が経常的に収入される一般財源等に占める割合をいいます。

27年度の経常収支比率は86.5%で、前年度と比較すると0.4ポイント低下していますが、最近5か年は、ほぼ横ばいで推移しています。

(単位:%)

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
苫小牧市	89.0	88.7	86.4	86.9	86.5
札幌市	94.0	94.3	92.3	94.0	
函館市	87.6	89.1	86.1	86.5	
小樽市	97.8	97.8	97.2	98.0	
旭川市	90.5	90.2	88.8	91.4	
釧路市	96.6	97.2	94.3	96.3	
帯広市	88.6	91.0	88.0	90.6	
北見市	90.7	89.7	90.2	90.4	
江別市	91.6	94.1	93.8	92.8	
9市平均	91.8	92.5	90.8	91.9	

出 典

総務省ホームページ「地方公共団体の
主要財政指標一覧」より

ウ 積立基金現在高 ※5

27年度の積立基金現在高は84億2,865万円で、前年度と比較すると24億6,643万円(41.4%)増加しています。これは、減債基金、公共施設整備基金及び財政調整基金の増などによるものです。

(単位:千円)

項 目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
積立基金現在高	3,149,698	3,680,686	5,255,421	5,962,221	8,428,655
対前年度増減率	3.7%	16.9%	42.8%	13.4%	41.4%

※5 「積立基金」とは、一般に財政運営を計画的に進めるため又は財政に余裕がある場合に、特定の支出目的や年度間の財源変動に備えて積み立てた資金のことをいいます。

エ 地方債現在高 ※6

27年度の地方債現在高は793億5,154万円で、前年度と比較すると57億8,863万円(7.9%)増加しています。これは、第三セクター等改革推進債、消防庁舎整備事業債などの借入れで38億7,902万円の増、臨時財政対策債で19億960万円の増などによるものです。

(単位:千円)

項目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地方債現在高 (うち臨時財政対策債残高)	66,812,493 (19,477,379)	72,988,200 (22,250,590)	73,225,496 (25,120,132)	73,562,991 (27,714,013)	79,351,544 (29,623,619)
対前年度増減率	△2.2%	9.2%	0.3%	0.5%	7.9%

※6 「地方債」とは、地方公共団体が資金を調達するために後年度にわたり財政負担を伴う債務であって、その返済が一会計年度を越えて行われるものをいいます。

4 審査意見

監査委員は、各会計の決算ごとに審査意見を述べています。一般会計に関する意見は、次のようなものとなっています。

財政健全化計画において管理されている経常収支比率、公債費比率及び実質公債費比率の3指標は、いずれも目標管理ゾーンの下限を大きく下回っており、将来負担比率もこの5年間で最も低い数値となっている。積立基金残高は、財政調整基金など総額で約84億円にまで増加している。

今後は市税収入の減少、社会保障給付費の増加、老朽化した公共施設の整備などが見込まれ、財政の健全性の確保と強化を目指して新たに策定された「財政基盤安定化計画」に基づく取組が着実に実施されるよう望むところである。

一般会計・特別会計決算及び基金運用状況、公営企業会計決算及び基金運用状況の審査を行っています。詳細は決算審査意見書を御覧ください。